

## S.C.WORKS 今週のスタディ！

### 【ヘッドライン】

- 1) 「大丸心齋橋店、知的障害者と有名パティシエがコラボ」
- 2) 「コメリ、仮設住宅に緑化ボランティア」
- 3) 「京福電鉄、被災地の仮設住宅へ京おせち」
- 4) 「横浜・都筑、“サンタクロースプロジェクト”」

---

### 1) 「大丸心齋橋店、知的障害者と有名パティシエがコラボ」

大丸心齋橋店北館地下1階入り口横で11月16日、知的障害者と有名パティシエがコラボレーションして作ったスイーツを販売する「テミルプロジェクト」の催事出店が始まった。デザインを通して健常者と障害者が共存できる社会を目指す事業を展開するテミルが手掛ける同プロジェクト。有名パティシエが開発したレシピを基に、社会福祉法人などの施設に勤務する知的障害者がスイーツを作り、人気絵本作家やイラストレーターによるパッケージデザインで商品を包み販売する。これにより最低賃金の確保をしようというビジネスモデルが評価を受け、2011年度のグッドデザイン賞を受けた。

同プロジェクトに賛同するパティシエは、モンサンクレールの辻口博啓さん、ユーハイムの安藤明さんなど。参加する社会福祉法人は、はるにれの里、北摂杉の子会、以和貴会など。販売するのは、「マフィン」（210円）、「抹茶とレモンのパウンドケーキ」（ホール＝1500円、カット＝220円）、「ガレット」（6枚入り＝980円）、「クッキー」（330円）など。

同プロジェクトの商品が西日本の百貨店で販売されるのは初めて。同店では、「テミルプロジェクトに流通の場を提供するだけでなく、より多くのお客さまにプロジェクトの実態とおいしいスイーツを認識していただく情報発信の場」と位置付けている。同店食品部プロモーションスタッフ和洋菓子担当の岡田一良さんは「テミルプロジェクトでは、シェフに『自分の店で売れるクオリティーを求めてほしい』と依頼している。実際に試食したがクオリティーは十分高い」と話す。

知的障害者の就業支援は小規模の団体が地域ごとでやっているというイメージがあり、販売形態もバザーや地元で販売するという程の認識しかなかった。しかし、このように大手企業や有名パティシエがバックアップしてくれると、多くの人の目に触れる機会ができ、より働く喜びを感じられるのではないかと話している。

---

### 2) 「コメリ、仮設住宅に緑化ボランティア」

コメリは11月18日、「コメリ緑資金の会」が福島県福島市の仮設住宅で緑化植栽ボランティアを行う。殺風景な仮設住宅を花や緑で飾り少しでも心が潤ってほしいと願い、この活動を計画したもの。

「コメリ緑資金の会」が花苗や用土などの資材をご提供し、仮設住宅の人々と農事組合法人産直センターふくしまのボランティアの人々、同社社員ボランティアが花を植える予定となっている。

7月4日には、岩手県陸前高田市の中学校でも学生やボランティアの人々、同社の社員でプランターと花壇をつくり緑化活動を行っている。

自社の特性を生かしたボランティアで、仮設住宅に住んでいる人も一緒に作業することで交流が生まれている。「コメリ緑資金の会」は、1990年から売上げの1%を資金源とし、800件ほどの活動がある。今後は、街の復興時にも一役買いそうだ。

---

### 3) 「京福電鉄、被災地の仮設住宅へ京おせち」

京福電鉄は、京料理の老舗料亭監修の本格的なおせちを、手紙を添えて東日本大震災の被災地に贈る予約販売を始めた。客がおせちを2組購入し、うち1組を客が書いた手紙とともに被災地の仮設住宅に届ける仕組み。同社は「お正月からきずなが生まれ、復興につながれば」としている。

おせちは2万円（税・送料込み）で2組ずつの500セット限定。寛永年間に創業し、約380年の歴史を持つ「京料理道楽」（京都市東山区）の14代目、飯田知史氏が献立を監修した。“福を呼び込むヒョウタン”という意味で「福瓢重（ふくひょうがさね）」と名付けた。

献立は、田作りや数の子など、おせちに欠かせない料理のほか、酢でしめたサバや金時ニンジン、湯葉を使った料理など、京都らしさが香る29品。風味をいかし、冷凍食品の製造・販売会社「銀しゃり本舗」（岐阜県恵那市）が製造する。

京福電鉄は9日から予約受け付けを始めたが、既に問い合わせがあるという。12月下旬に岩手県の仮設住宅に届ける予定。

お金の支援も必要だと思うが、実際個人の手元に届くには長い道のりがある。しかし、こうした明確な商品、さらに少しでもお正月の気分を味わって欲しいという思いを込めたものならば、被災地の方々も受け取ってくれるのではないかと。また、支援したいがどうすれば良いか悩んでいる人にとっても、ありがたいシステムだと思う。

「めでたい」がNGという空気になるのは仕方がないかもしれないが、ただ、それを蔓延させてはならないと思う。少しでも明るい気持ちで新年を迎えられることを願いたい。

---

### 4) 「横浜・都筑、“サンタクロースプロジェクト”」

横浜・都筑の被災地支援ボランティアサークル「芽吹きの家」は現在、被災地へマフラー・手袋・帽子を贈る「サンタクロースプロジェクト」を展開している。

都筑区の主婦を中心に、地域の店舗や企業の協力を受けながら活動する同サークル。東日本大震災発生直後から、宮城県気仙沼市・大崎市・石巻市・南三陸町、岩手県大船渡市・陸前高田市、福島県いわき市・南相馬市の主婦と連絡を取り合い、衣料品や文房具、ベビー用品などを贈ってきた。

今回は、クリスマスの時期が近づき「被災地の子どもたちへなにかプレゼントできないか」という思いから、被災地の主婦らと相談した結果、マフラー・手袋・帽子の3点を集めて贈ることにした。現在都筑区内外の団体や企業などがこの活動に賛同している。

同サークル代表の中西美奈子さんは「被災地の子どもたちへ笑顔を届けたいという思いで始めた活動。顔の見える支援にこだわり、被災地のママたちと直接連絡を取り合い、被災地のニーズに合わせて集めている。この活動を通して、被災地の現状や支援を必要としている方がまだまだいることを知ってほしい」と話す。

同プロジェクトへの協力は「芽吹きの会」のウェブページから。マフラー・手袋・帽子の受け付けは11月30日まで。

初雪も観測され、どんどん寒くなっている今、ユニクロのヒートテックを届ける取り組みと同じく、すぐに使える実用的な物資を送る事が必要だと思う。

このプロジェクトは実際に被災地で生活をしている人に直接届けるので手から手へと気持ちを届けやすい。子どもたちだけでなく、被災地のお年寄りや妊婦の方にも防寒具が届いて欲しい。